

# 金沢大学入試問題2002

## 1 [2002 金沢大]

(1)  $f(x) = x^3 - 6x^2 - 96x - 80$  とする.  $x \geq 14$  ならば  $f(x) > 0$  となることを示せ.

(2) 自然数  $a$  に対して,  $b = \frac{9a^2 + 98a + 80}{a^3 + 3a^2 + 2a}$  とおく.  $b$  も自然数となるような  $a$  と  $b$  の組  $(a, b)$  をすべて求めよ.

(1)  $f(x) = x^3 - 6x^2 - 96x - 80$

$$f'(x) = 3x^2 - 12x - 96 = 3(x+4)(x-8)$$

$x \geq 14$  のとき, 常に  $f'(x) > 0$  であるから  $f(x)$  は単調に増加. また  $f(14) = 144$  よって,  $x \geq 14$  ならば  $f(x) \geq f(14) = 144 > 0$

(2)  $b$  が自然数となるためには,  $b \geq 1$  から  $\frac{9a^2 + 98a + 80}{a^3 + 3a^2 + 2a} \geq 1$  となることが必要.

$$\text{よって } 9a^2 + 98a + 80 \geq a^3 + 3a^2 + 2a$$

$$\text{すなわち } a^3 - 6a^2 - 96a - 80 \leq 0$$

ゆえに, (1) から  $a$  は  $1 \leq a \leq 13$  を満たす自然数.

$$\text{また } b = \frac{6(a^2 + 16a + 13) + (3a^2 + 2a + 2)}{a(a+1)(a+2)} \text{ と表される.}$$

$a(a+1)(a+2)$  は連続3整数の積であるから6の倍数.

よって,  $3a^2 + 2a + 2$  が6の倍数, すなわち2の倍数であり, かつ3の倍数であるとき,  $b$  は自然数となる.

[1]  $3a^2 + 2(a+1)$  が2の倍数になるとき

$3a^2$  が2の倍数, すなわち  $a$  が2の倍数のとき.

[2]  $3a^2 + 2(a+1)$  が3の倍数になるとき

$2(a+1)$  が3の倍数, すなわち  $a = 3k - 1$  ( $k = 1, 2, \dots$ ) のとき.

$1 \leq a \leq 13$  で [1], [2] を同時に満たす  $a$  の値は  $a = 2, 8$

$$\text{よって } a = 2 \text{ のとき } b = \frac{6 \cdot 49 + 18}{2 \cdot 3 \cdot 4} = 13,$$

$$a = 8 \text{ のとき } b = \frac{6 \cdot 205 + 210}{8 \cdot 9 \cdot 10} = 2$$

したがって  $(a, b) = (2, 13), (8, 2)$

## 2 [2002 金沢大]

関数  $f(x) = -\frac{3}{4}x^2 + \frac{1}{4}x + 2|x| - \frac{15}{16}$  に対して

(1)  $f(x) \leq 0$  を満たす  $x$  の値の範囲を求めよ.

(2) 関数  $f(x)$  の最大値を求めよ.

(3)  $a > 0$  とするとき,  $\int_{-a}^a f(x) dx > 0$  を満たす  $a$  の値の範囲を求めよ.

(1)  $x \geq 0$  のとき

$$f(x) = -\frac{3}{4}x^2 + \frac{1}{4}x + 2x - \frac{15}{16}$$

$$= -\frac{3}{16}(2x-5)(2x-1)$$

$$= -\frac{3}{4}\left(x - \frac{3}{2}\right)^2 + \frac{3}{4}$$

$x < 0$  のとき

$$f(x) = -\frac{3}{4}x^2 + \frac{1}{4}x - 2x - \frac{15}{16}$$

$$= -\frac{1}{16}(6x+5)(2x+3)$$

$$= -\frac{3}{4}\left(x + \frac{7}{6}\right)^2 + \frac{1}{12}$$

$y = f(x)$  のグラフは図のようになるから,  $f(x) \leq 0$  を満たす  $x$  の値の範囲は

$$x \leq -\frac{3}{2}, -\frac{5}{6} \leq x \leq \frac{1}{2}, \frac{5}{2} \leq x$$

(2) グラフから,  $x = \frac{3}{2}$  のとき  $f(x)$  は最大値  $\frac{3}{4}$  をとる.

(3)  $a > 0$  であるから

$$\int_{-a}^a f(x) dx = \int_{-a}^a \left(-\frac{3}{4}x^2 + \frac{1}{4}x + 2|x| - \frac{15}{16}\right) dx$$

$$= \int_{-a}^a \left(-\frac{3}{4}x^2 + 2|x| - \frac{15}{16}\right) dx$$

$$= 2 \int_0^a \left(-\frac{3}{4}x^2 + 2x - \frac{15}{16}\right) dx$$

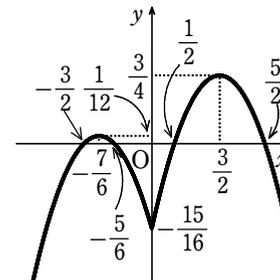
$$= 2 \left[ -\frac{1}{4}x^3 + x^2 - \frac{15}{16}x \right]_0^a$$

$$= 2 \left( -\frac{1}{4}a^3 + a^2 - \frac{15}{16}a \right)$$

$$= -\frac{1}{8}a(2a-3)(2a-5)$$

よって,  $a > 0$ ,  $\int_{-a}^a f(x) dx > 0$  を満たす  $a$  の値の範囲は

$$a > 0, -\frac{1}{8}(2a-3)(2a-5) > 0 \text{ から } \frac{3}{2} < a < \frac{5}{2}$$



## 3 [2002 金沢大]

$f(z) = z^4 + az^3 + bz^2 + cz + d$  を実数係数の4次多項式とする.

(1) 複素数  $\alpha$  が方程式  $f(z) = 0$  の解ならば,  $\alpha$  と共役な複素数  $\bar{\alpha}$  も解であることを示せ.

以下では,  $\alpha$  は虚部が正で絶対値が1より大きい複素数とし,  $\alpha, \frac{1}{\alpha}$  がともに方程式

$f(z) = 0$  の解になっているものとする.

(2) 方程式  $f(z) = 0$  の  $\alpha$  と異なる解のうち, 虚部が正であるものを  $\beta$  とする. 複素数平面において, 点  $\alpha$  と点  $\beta$  が直径の両端となる円を  $C$  とする.  $C$  の中心と半径を,  $\alpha$  の絶対値  $r$  と偏角  $\theta$  を用いて表せ.

(3) 原点  $O$  から (2) の円  $C$  へ接線を引き, 接点の1つを  $w$  とする.  $w$  の絶対値を求めよ.

(1)  $f(\alpha) = \alpha^4 + a\alpha^3 + b\alpha^2 + c\alpha + d = 0$  であるから

$$\begin{aligned} f(\bar{\alpha}) &= (\bar{\alpha})^4 + a(\bar{\alpha})^3 + b(\bar{\alpha})^2 + c\bar{\alpha} + d = \overline{\alpha^4 + a\alpha^3 + b\alpha^2 + c\alpha + d} \\ &= \overline{\alpha^4 + a\alpha^3 + b\alpha^2 + c\alpha + d} = \bar{0} = 0 \end{aligned}$$

よって,  $\alpha$  が  $f(z) = 0$  の解ならば  $\bar{\alpha}$  も  $f(z) = 0$  の解である.

(2)  $\alpha$  は虚部が正で,  $|\alpha| > 1$  であるから,  $\alpha, \bar{\alpha}, \frac{1}{\alpha}, \frac{1}{\bar{\alpha}}$  はすべて異なる.

(1) から, これらは  $f(z) = 0$  の解である.

また,  $f(z) = 0$  は4次方程式であるから, これら以外に解はない.

$\alpha$  の虚部が正であるから, 他に虚部が正であるのは  $\frac{1}{\alpha}$

このことと  $\beta \neq \alpha$  から  $\beta = \frac{1}{\alpha}$

$\alpha = r(\cos \theta + i \sin \theta)$  であるから

$$\beta = \frac{1}{r(\cos \theta - i \sin \theta)} = \frac{1}{r}(\cos \theta + i \sin \theta)$$

$r > 1$  であるから, 円の半径は  $\frac{1}{2}\left(r - \frac{1}{r}\right)$

原点と中心の距離は  $\frac{1}{r} + \frac{1}{2}\left(r - \frac{1}{r}\right) = \frac{1}{2}\left(r + \frac{1}{r}\right)$

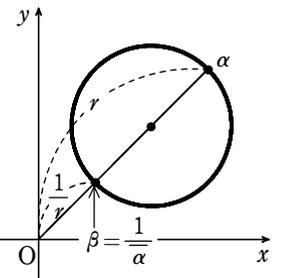
であるから, 円の中心は点  $\frac{1}{2}\left(r + \frac{1}{r}\right)(\cos \theta + i \sin \theta)$

(3) 円  $C$  の中心を  $C$ ,  $w$  の表す点を  $W$  とすると

$$|w| = |OW| = \sqrt{|OC|^2 - |CW|^2}$$

$$= \sqrt{\left\{\frac{1}{2}\left(r + \frac{1}{r}\right)\right\}^2 - \left\{\frac{1}{2}\left(r - \frac{1}{r}\right)\right\}^2}$$

$$= \sqrt{\frac{1}{2} + \frac{1}{2}} = 1$$



# 金沢大学入試問題2002

## 4 [2002 金沢大]

$a$  を正の定数とし、 $xy$  平面上の曲線  $y = a\sqrt{1-x^2}$  ( $-1 \leq x \leq 1$ ) を  $C$  とする。

$0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  を満たす実数  $\theta$  に対して、点  $A\left(\frac{1}{\cos\theta}, 0\right)$  から曲線  $C$  に接線  $l$  を引き、接点を  $P$  とする。

(1)  $l$  の方程式および  $P$  の座標を求めよ。

(2) 直線  $x = -1$  と直線  $l$  および曲線  $C$  で囲まれる部分の面積を  $S_1$  とし、 $x$  軸と直線  $l$  および曲線  $C$  で囲まれる部分の面積を  $S_2$  とする。 $S_1, S_2$  を求めよ。

(3) 直線  $l$  と直線  $x = -1$  の交点を  $B$  とする。点  $P$  が線分  $AB$  の中点となるならば、 $S_1 = 2S_2$  が成り立つことを示せ。

(1)  $y = a\sqrt{1-x^2}$  から  $x^2 + \frac{y^2}{a^2} = 1$

$P$  の座標を  $(t, a\sqrt{1-t^2})$  とすると、接線  $l$  の方程式は  $tx + \frac{\sqrt{1-t^2}}{a}y = 1$

すなわち  $y = \frac{-at}{\sqrt{1-t^2}}x + \frac{a}{\sqrt{1-t^2}}$  …… ①

$l$  が  $A\left(\frac{1}{\cos\theta}, 0\right)$  を通るから、①より  $0 = \frac{-at}{\sqrt{1-t^2}} \cdot \frac{1}{\cos\theta} + \frac{a}{\sqrt{1-t^2}}$

$a > 0$  であるから、整理して  $t = \cos\theta$

$0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  であるから  $\sqrt{1-t^2} = \sin\theta$

ゆえに、 $l$  の方程式は  $y = \frac{-a\cos\theta}{\sin\theta}x + \frac{a}{\sin\theta}$

すなわち  $y = \frac{-a}{\tan\theta}x + \frac{a}{\sin\theta}$

また、 $P$  の座標は  $(\cos\theta, a\sin\theta)$

(2) 直線  $x = -1$  と直線  $l$  の交点  $B$  の座標は  $\left(-1, a \cdot \frac{1+\cos\theta}{\sin\theta}\right)$

$y$  軸方向に  $\frac{1}{a}$  倍すると、曲線  $C$  は半径 1 の半円になる。このとき、 $A, B, P$  に対応する点を、それぞれ  $A', B', P'$  とし、 $S_1' = \frac{1}{a}S_1, S_2' = \frac{1}{a}S_2$  とすると、 $S_1', S_2'$  は図の影の部分の面積になる。

$A'\left(\frac{1}{\cos\theta}, 0\right), B'\left(-1, \frac{1+\cos\theta}{\sin\theta}\right),$

$P'(\cos\theta, \sin\theta), \angle A'OP' = \theta$  であるから

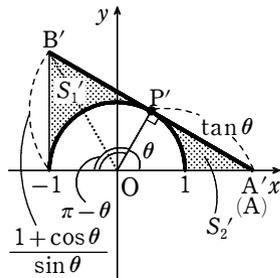
$$S_1' = 2\left(\frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \frac{1+\cos\theta}{\sin\theta}\right) - \frac{1}{2} \cdot 1^2(\pi - \theta)$$

$$= \frac{1+\cos\theta}{\sin\theta} + \frac{\theta}{2} - \frac{\pi}{2}$$

$$S_2' = \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \tan\theta - \frac{1}{2} \cdot 1^2 \cdot \theta = \frac{1}{2}(\tan\theta - \theta)$$

ゆえに  $S_1 = aS_1' = a\left(\frac{1+\cos\theta}{\sin\theta} + \frac{\theta}{2} - \frac{\pi}{2}\right), S_2 = aS_2' = \frac{a}{2}(\tan\theta - \theta)$

(3) 点  $P$  が線分  $AB$  の中点であるから、点  $P$  の  $x$  座標を考えると



$$\cos\theta = \frac{1}{2}\left(-1 + \frac{1}{\cos\theta}\right)$$

整理して  $2\cos^2\theta + \cos\theta - 1 = 0$

ゆえに  $(\cos\theta + 1)(2\cos\theta - 1) = 0$

$$0 < \theta < \frac{\pi}{2} \text{ から } \cos\theta = \frac{1}{2}$$

よって  $\theta = \frac{\pi}{3}$

このとき

$$S_1 = a\left(\frac{1 + \frac{1}{2}}{\frac{\sqrt{3}}{2}} + \frac{\pi}{6} - \frac{\pi}{2}\right) = a\left(\sqrt{3} - \frac{\pi}{3}\right)$$

$$S_2 = \frac{a}{2}\left(\sqrt{3} - \frac{\pi}{3}\right)$$

したがって、 $S_1 = 2S_2$  が成り立つ。

## 5 [2002 金沢大]

すべての正の数  $x, y$  に対して、不等式  $x(\log x - \log y) \geq x - y$  が成り立つことを証明せよ。また、等号が成り立つのは  $x = y$  の場合に限ることを示せ。

$$f(u) = \log u \text{ とおくと } f'(u) = \frac{1}{u}$$

[1]  $x > y > 0$  のとき

平均値の定理から、 $\frac{\log x - \log y}{x - y} = f'(c)$  を満たす  $c$  ( $0 < y < c < x$ ) が存在する。

すなわち  $\frac{\log x - \log y}{x - y} = \frac{1}{c}$

$$\frac{1}{x} < \frac{1}{c} < \frac{1}{y} \text{ であるから } \frac{\log x - \log y}{x - y} > \frac{1}{x}$$

$x - y > 0, x > 0$  であるから  $x(\log x - \log y) > x - y$  が成り立つ。

[2]  $y > x > 0$  のとき

[1] と同様にして  $\frac{\log x - \log y}{x - y} < \frac{1}{x}$

$x - y < 0, x > 0$  であるから  $x(\log x - \log y) > x - y$  が成り立つ。

[3]  $x = y > 0$  のとき

$x(\log x - \log y) = x - y = 0$  が成り立つ。

[1] ~ [3] から、すべての正の数  $x, y$  に対して  $x(\log x - \log y) \geq x - y$  が成り立つ。

等号が成り立つのは、 $x = y$  のときに限る。